

かたりのたね

～巡りて芽吹く緑の花～

【舞台】

それは過去や未来の瞬間を、“今の時間”と並行して表現する唯一の芸術

その歴史は古代ギリシアまたはその以前にまで遡る

演劇、歌、舞踊... 生きた人間だけが織りなせる物語は、どの時代でも人々に楽しみや感動、あるゆるメッセージを伝えてきた

しかし近代、人々は手の中の小きな世界に固執し、目の前にある“生きた世界”の尊さを忘却しつつある

かつて舞台だけが教えてくれた“かたり”の世界を、現代日本人や劇場のない地域の子供たちに伝えるための新しい形の移動式劇場を提案する

01 Purpose

設計の目的

かたりのたねの第一の目的は、日本において関心が低い舞台芸術そのものを身近にすることである。

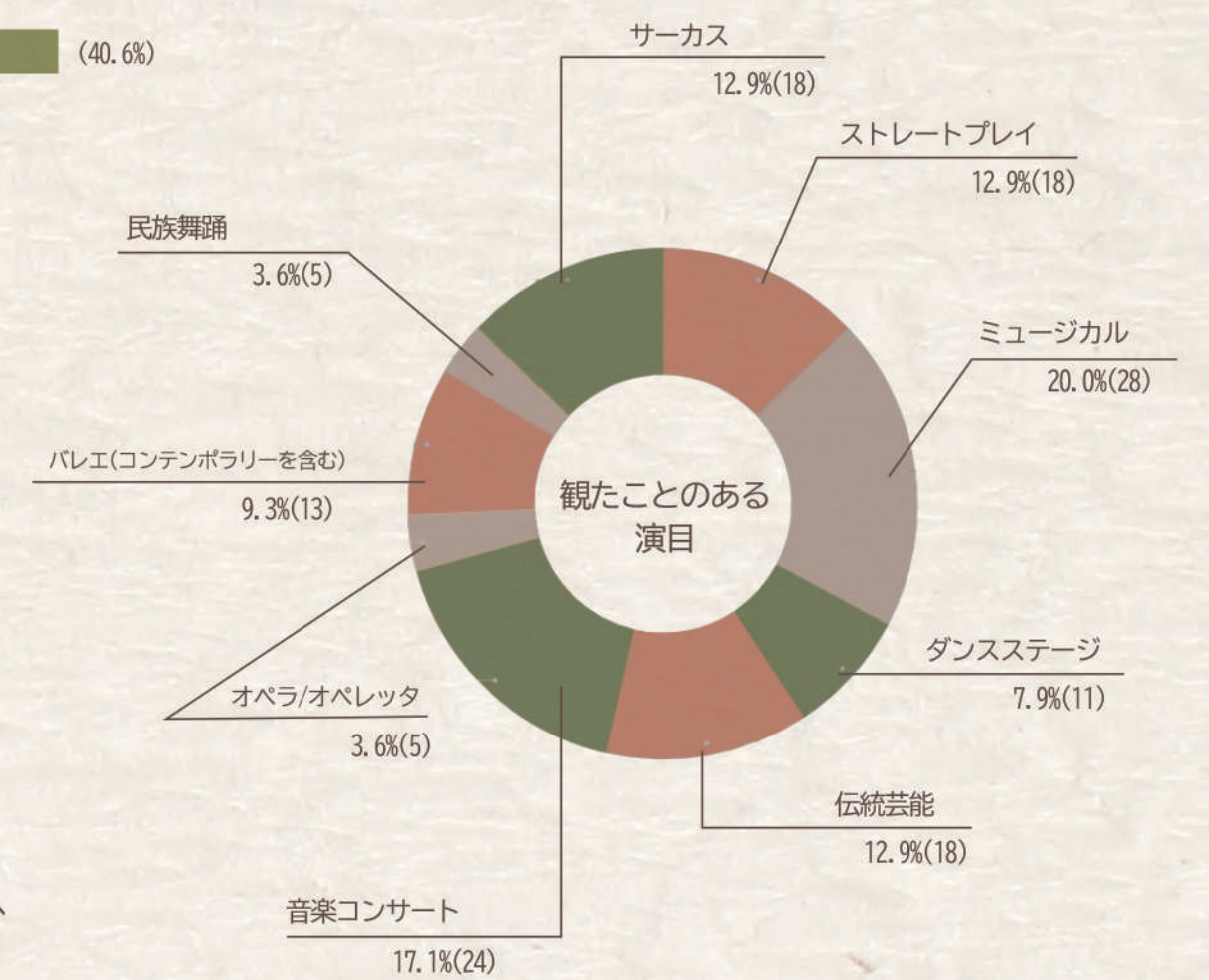
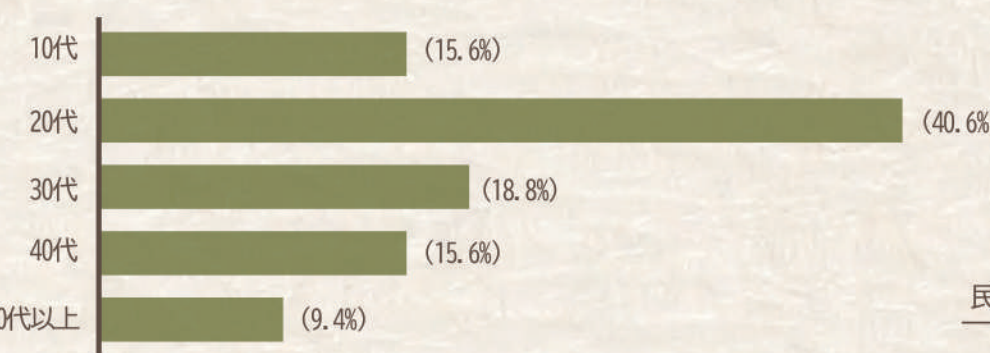


02 Pre-survey

事前調査

劇場設計に当たり、身近な劇場の有無や舞台芸術に対する正直なイメージ、意見などのアンケートを実施した。結果「チケットが高い」「特別な時に見る物」「都市にしか劇場がない」など、関心面以上に物理・金銭面において舞台芸術に触れることへ敷居の高さを感じている人が多かった。この結果から地方の公園など、【身近な距離の気軽に訪れることができる劇場】を設計したいと考えた。

【調査した年齢層割合】



オーニソプター(飛行機の原型)
ornithopter



=古・移動・夢を運ぶ

植物のたね
Seed



=未来・世代をこえて広がる

Design Concept

デザインコンセプト

04 Diagram

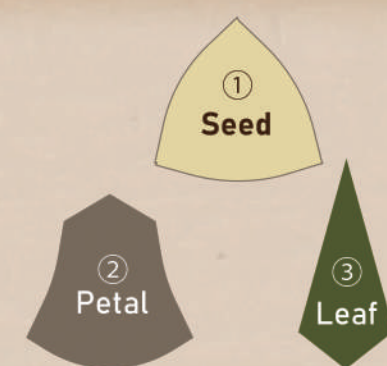
ダイアグラム

0 前提条件



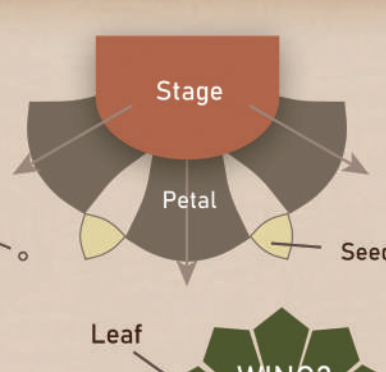
1 “たね”の成長過程を図形化

①種子 ②葉 ③花弁 の3要素を図形として簡略化する。



2 花開くようにレイアウト

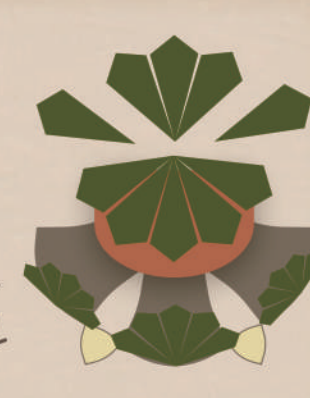
舞台を囲むように要素をレイアウト。葉はWING2のデザインに使用。



3 柱をレイアウト

アウトライン上に組み立て式の柱を立てる。

※組立詳細は「Pillar」欄



Matinee

昼



05 For Environment

国産木材の現状に注目し、間伐材を利用する。

決まった長さの間伐材のみで作成・使用することで、構造をユニット化。解体・組み立てを容易にすることで不良が出たら簡単に交換ができ、長く使うことができる。

